

◆参加報告◆

日赤図書室協議会研修会に参加して

田中君枝

平成25年7月15日(月)・16日(火)に本社を会場に開催されました研修会に参加しました。

昨年度、10年勤めた人事から主に臨床研修の事務を担当するために図書室に異動になり一年が過ぎたところで研修会の案内をいただき、「新任者でも困らない図書業務」をコンセプトとして開催されるとのことでしたので私にもわかるお話が伺えるかもしれないと期待して出席させていただきました。

千葉県済生会習志野病院図書室佐藤正恵先生の「図書室に配属された担当者の事始め」と題した講演を拝聴し、まず心構えを学ばせていただきました。その中で「人生は下りエスカレーターである。何もしなければ社会的利用価値が下がる。」との言葉に図書業務に限らず何事にも通じることですが一生勉強が必要であると実感しました。また佐藤先生が平成22年に現在の職場に就職された際に院長先生から「司書は贅沢品だから」とのお話があり「視野は広く、視座は高く、視線は深く」を心がけてみえると伺い、家庭人としての役割を全うしつつも、一段二段とさらに上を目指して努力してみえる姿勢に深く感動いたしました。ご自身のキャリアについては10年単位で考え、職務経歴書は毎年書き換えてみえ

るとのお話を伺い、まさにキャリアアップのPDCAサイクルを着実に回してみえると感じ、向上していくためには目標を立て、検証することの必要性を改めて実感しました。

ワークショップでは「利用者教育」のグループに参加し、各図書室の指導の流れをお聞きしました。採用時には利用案内にそって医中誌を中心に文献の検索方法、メディカルオンライン等の閲覧方法を指導し、またさらに利用時に操作方法の質問があったときに答える形でその都度指導しているとのことがあり、日常業務で多忙なときの質問に対する対応は大変でもあります。図書室はつながりの場であり、丁寧な対応が口コミで職員に広がり利用が増えることは目で見える広報よりも効果的であるとお話を伺い、面倒がらずに対応することが大切だと感じました。研修医に対しては大学ごとに文献検索の教育がまちまちであるため、どこまでわかるかを尋ねてから指導していると伺い、今後の指導に役立てたいと思います。また部長レベルの50歳以上限定の「いまさら聞けない文献検索教室」はぜひ真似させていただきたいと思いました。「相互利用」をテーマとしたグループでは文献をお願いするばかりではなく、もっと依頼されたいのご意見があり、図書業務に愛を持って取り組んでみえる様子に暖かい気持ちになりました。

TANAKA Kimie
高山赤十字病院

今回研修の機会をいただき、また他施設の皆さんと交流させていただきありがとうございました。今後の業務に活かしていきたいと思います。この場をお借りしまして御礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



第20回日赤図書室協議会研修会総会